

# 人生を導く信仰

このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この3つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。聖書

穏やかな日差しの下で、花は咲き、散っていきます。人間にも出会いがあり、別れがあります。このように移り変わる世の中であって、聖書は私たちの生き方を導いてくれます。その聖書で、「変わらずいつまでも存続するもの」とされているのが「信仰と希望と愛」です。このこれまで、「希望」と「愛」についてのべてきましたので、最後に「信仰」を取りあげます。信仰は、人生を導いてくれる大切な杖となるのです。

## 拝みたい心

時代を超え、民族を超えて人類全てに共通するもの、それは「拝みたい心・拝もうとする心」です。普段は目の前の事に精一杯で、神などないかのように暮らしている人々が、何かあった場合、或は大きな決断に迫られた時などに、「神さま」と助けを求めます。特に問題が無くて、安全や健康など生活が保たれるようにと祈り、祝福を願います。

昔から、「困った時の神頼み」と言われますが、人間は最後に、神に助けを求めます。何故か。それは、人間は神によって造られたため、「神がおられるのを知っているからです。ですから、人間は困った時とまさに、「神さま」と助けを求めるのです。人間は神によって造られました。進化論は一つの学説にしか過ぎま

せん。猿は猿として造られ、人間は人間として造られたのです。

## 人間を造った神と、人間が造った神

聖書は、人間を含むこの世界のすべてを造った神を知らせています。一方、「人間が造った神」についても言及しています。

### 1. 人間が造った神

ご承知のとおり日本は、「八百万の神」と言われており、世界の国にも様々な神が祭られています。これらの神は、「願望に答えてくれる神」と、「災いから守ってくれる神」に区別されます。前述のとおり、全ての人に「拝みたい」との思いが与えられており、その思いが何かを拝むようになってきました。

「拝みたい」との「悪い」と「信心」とは大切に尊重されるべきです。しかし、人間が造った神には限界があります。聖書のイザヤ書で、「その所に置き、そこに立たせる。これはその所から動くことができない。人がこれに呼ばわっても答えることができない。また彼をその悩みから救うことができない」との記述があります。

### 2. 人間を造った神

モーセは紀元前1400年頃に先祖が語り伝えてきたことを創世記に記しました。創世記1章には「はじめに神は天と地とを創造された」

から始まり、この世界、そして人間の創造をあらわしています。神は、ご自分のかたちに人間を創造し、この世界を治めさせようとしてしました。ですから、私たちの祈りを聞き、願いに耳を傾けるのです。人間は、神に造られたのです。

## 神に喜ばれる信仰

信仰の定義は、次のとおりです。  
「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見えていない事実を確認することでである…信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。なぜなら、神に来る者は、神のいきごと、ご自身を求め者に報いて下さることを、必ず信じるはずだからである。-新約聖書ヘブル人の手紙11章」  
どうか、今も生きて、弱いわたしたちを導く神を信賴し、地上の人生を歩もうではありますか。祝福が豊かにありますよう、祈っています。

牧師  
和田 忠三



は、毎朝礼拝があり、そこで聖書を学び、「も神がおられるのな」ここで、全存在を否定されたことも苦しみで、語られては神であろうと感じていました。その後、現実人は人をゆるせず人生の

は、毎朝礼拝があり、そこで聖書を学び、「も神がおられるのな」ここで、全存在を否定されたことも苦しみで、語られては神であろうと感じていました。その後、現実人は人をゆるせず人生の

あかし  
生きる目的を求めて



あかし  
生きる目的を求めて

どうして教会に行くの？

私は京都府京都市の問屋の長女として生を受けて、何不自由なく育ちました。しかし、私が10才の時、私を愛く可愛がってくれた兄が自死したと聞き、突然の兄の死に私はショックを受けると共に、「人は死んだらもうなるのだらう」と常に厳しくも、それは耐え難いものでした。その後、わが子に恵まれました。その後入学生した同志社女子中学校で、転動のため大阪に移住して数日後、夫は、毎朝礼拝があり、そこで聖書を学び、「も神がおられるのな」ここで、全存在を否定されたことも苦しみで、語られては神であろうと感じていました。その後、現実人は人をゆるせず人生の

あかし  
生きる目的を求めて